

# 武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る／学ぶ／訪ねる／  
武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

【住所】 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10  
 【電話】 042-323-4103 【FAX】 042-300-0091  
 【E-mail】 museum@city.kokubunji.tokyo.jp  
 【HPアドレス】 http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html

2015.8  
第22号



## Temporary Exhibition



平成27年度夏季企画展

# 国分寺市の戦争記録



展示風景



国分寺市内に落とされた焼夷弾しょういだん

平成27年夏、太平洋戦争が終結してから70年を迎えます。

本展覧会では、主に昭和19年～20年頃（太平洋戦争末期）の国分寺市（当時は国分寺町）における出来事と人々の暮らしに着目しました。

多摩地域でも、大規模な軍需工場ぐんじゆこうじようがあった場所などに甚大な空襲被害があったことは知られています。しかし、当時の国分寺町民の生活がどのようなものであったのかはあまり知られていません。

そこで、太平洋戦争末期における町の様子を、衣食・防空・児童などを中心に、残された資料や地元の人々の証言をもとにご紹介します。

この歴史を、我々は今後どのように検証し、向き合っていけば良いのでしょうか。展示では、戦後70年という節目の機会に、残されているわずかな記録をひもときます。



芋切機いもきりきと切断されたサツマイモせつだん（干芋ほしいも）

- 開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時45分まで）
- 期 間 平成27年7月18日（土）～8月30日（日）
- 会 場 武蔵国分寺跡資料館 講座室
- 入 館 料 「おたかの道湧水園」への入園料が必要
- 休 館 日 月曜日（祝・振替休日の場合は直後の平日）

## 来館者数

2009年10月18日～2015年6月末日

来館者数累計 86,186名

多くのご来館ありがとうございました

月	来館者数	開館日数
4	1,126	26
5	2,173	27
6	681	25
計	3,980	78

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

【4月～6月の学校見学】

〔学年〕、〔人数〕、中＝中学生、高＝高校生、大＝大学生、院＝大学院生  
 <市内> 第一小学校〔小6〕(49)、第四小学校〔小6〕(135)、第六小学校〔小6〕(107)、第八小学校〔小6〕(50)、第九小学校〔小6〕(69)、第十小学校〔小6〕(64)  
 <市外> 小金井第四小学校〔小6〕(87)、東京学芸大学社会科地理学教室(18)、創価高等学校〔高2〕(18)、サレジオ学院中学校・高等学校〔高1・高2・中1・中2・中3〕(24)、帝京大学文学部史学科〔大3〕(8)、立川女子高等学校〔高3〕(18)、国士館大学文学部考古学研究室〔大3・大2・大1〕(32)

現在、武蔵国分寺跡資料館で開催している「国分寺市の戦争記録」に関連し、ここでは展示で取り上げられなかった市内の戦争に関する話をご紹介します。

## 中央工業南部工場と空襲

### 中央工業南部工場とは

国分寺町内最大の軍需工場は中央工業南部工場でした。工場は現在の早稲田実業学校の場所にあり、中央線の南側、現在の東京経済大学のある場所には工場で働く人達の宿舍や食堂がありました。最大で 6,000 人以上の人が働いていたとも言われています。戦争末期になると、労働力の不足を補うために町内の国民学校の生徒も動員されています。

### 作っていたもの

南部工場では、<sup>しょうこう</sup>将校用のピストルや<sup>しせい</sup>試製一式軽機関銃といった、まさに戦争で用いられる武器が製造されていました。アメリカで開発された AN/M2 航空機関銃を原型として、陸軍が昭和 16 年（1941）に一式十二・七<sup>ミリ</sup>固定機関砲ホー〇三として採用した航空機用機関砲も作っていたようです。

### 攻撃目標リスト

昭和 19 年（1944）にサイパン島などを占領したアメリカ軍は飛行場をつくり、B29 による本土爆撃を開始します。初期の爆撃では軍需工場や軍事施設を目標とします。その際にどの工場や軍事施設へ攻撃する必要があるかということを検討し、いわば攻撃目標リストを作成していました。リストには場所（<sup>けいど</sup>緯度・経度）、はっきりと写った航空写真、どの建物が何の建物であるかという情報とともに、その工場で何を作っているかという情報も載せられています。

国分寺町近辺で最大の攻撃目標は、東洋最大の航空機工場ともいわれた<sup>なかしまひこうきむさしこうじょう</sup>中島飛行機武蔵工場（武蔵野市）と、立川飛行場・立川飛行機（立川市）、そしてその周辺にあった航空関係の工場でした。武蔵野市・西東京市や、立川市・昭島市・東大和市では空襲による大きな被害を出しています。

そのようなリストがありながら、武器を製造していた南部工場は空襲を受けていません。

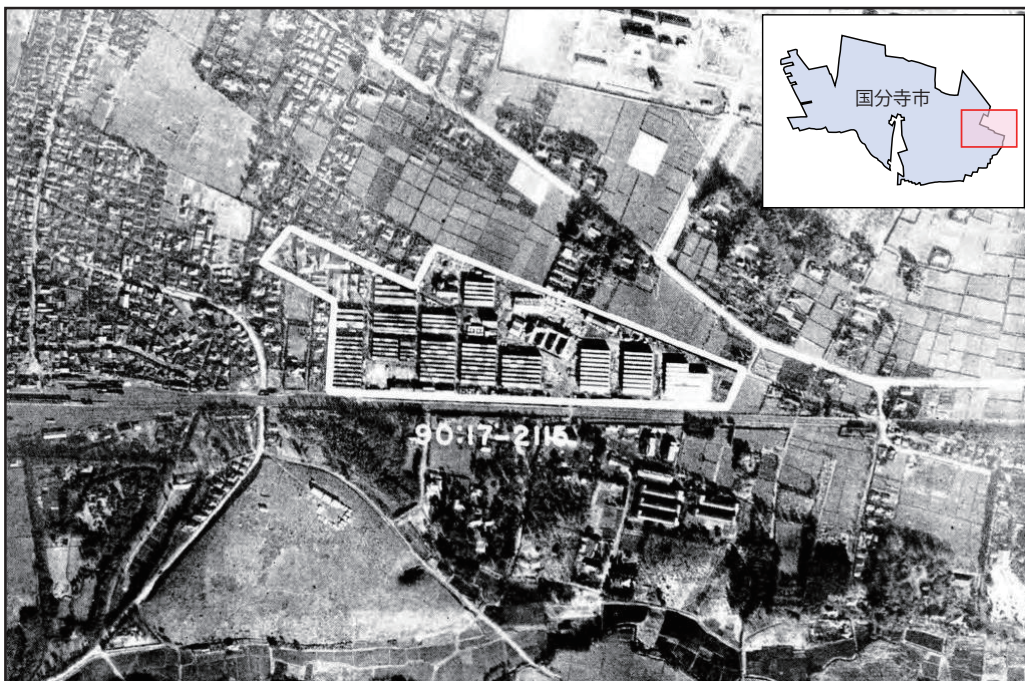
### リストの誤記

リストの中では南部工場が、<sup>よこかわでんき</sup>小金井町の横河電機小金井工場と誤って記されていました。横河電機小金井工場は、電流計（地上・航空機用）、温度計、航空機用発電機などを作る工場と書かれています。これによって武器工場である南部工場に比べて攻撃の優先度が低くなったのかもしれませんが。

昭和 17 年（1942）頃には、軍事関係の施設を記さない（空白にする）地図が作成されています。国分寺町と小金井町の境目にも空白があり（実際工場の一部は小金井町に含まれています）、小金井町の大きな工場として、誤解されやすい条件にあったともいえます。

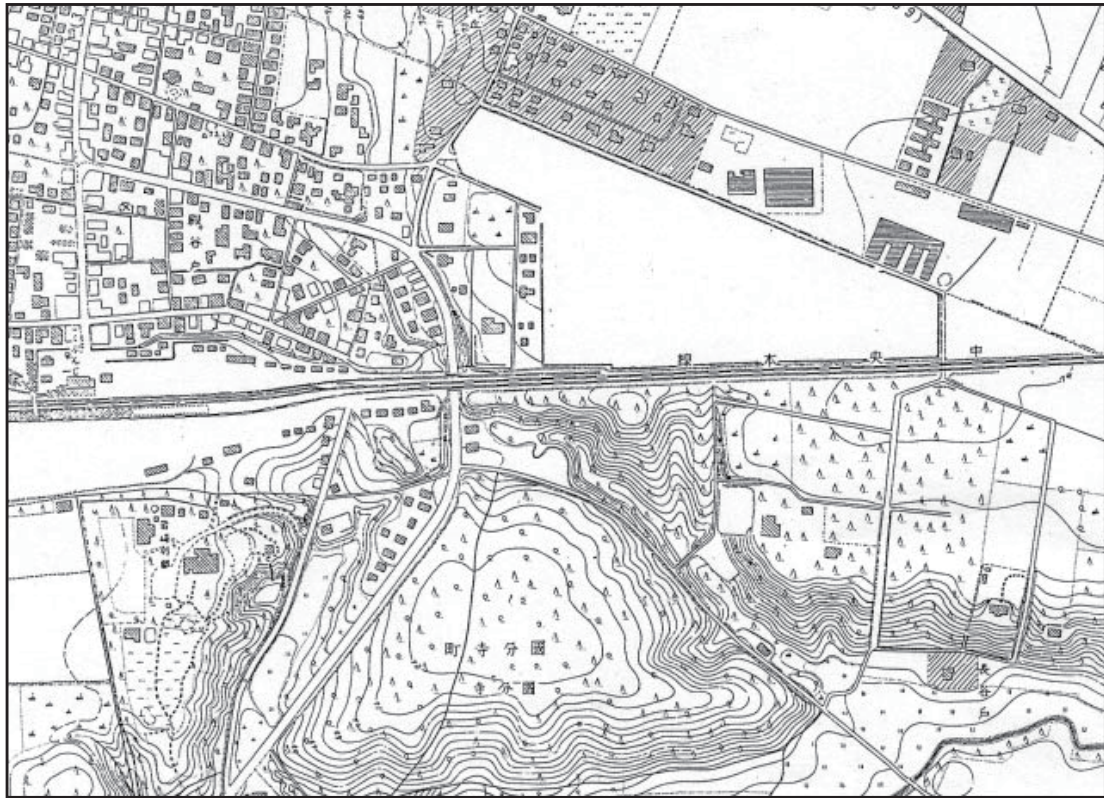
### カモフラージュ

工場では空襲を受けないようにするために、工場を目立たなくするカモフラージュを行いました。もともと工場の屋根は白黒写真では白一色の屋根でした。しかし空襲が頻繁に繰り返されるようになった頃に、南部工場は



工場の範囲が白い線で囲まれ、空襲の目標とされた中央工業南部工場（昭和 20 年 1 月撮影）

「Target in Tokyo area, Report No.1-a(4), USSBS Index Section7Target in Tokyo area, Report No.1-a(4), USSBS Index Section7」より転載。



昭和 18 年の中央工業南部工場の位置 工場の範囲が空白とされている。

『多摩地形図』P58 より転載。

屋根の色を塗り替えています。白黒写真で、白・灰色・黒で見えるようになっており、おそらく大きな建物があることを隠そうとしたのではないかと思います。

しかし、アメリカ軍は、非常に高精細の写真を撮影できていたので、カモフラージュ塗装をした大きな建物があることがわかります。工場と町の境目もはっきりと区別していました。このように、工場のおこなったカモフラージュの効果は怪しいものでした。やはりリストで誤った記述がされたという偶然の結果、南部工場に対する空襲は行われなかったと考えるべきなのかもしれません。

### 5月25～26日の空襲とその後

リストの横河電機小金井工場の情報は、「1945年5月22日」に作成されたものでした。5月25～26日に本多地区と戸倉・内藤地区は空襲を受けます。本多地区に対する空襲は焼夷弾を主体とするもので、焼失家屋11戸、2名の犠牲者を出しました。この空襲が南部工場を狙ったものであった可能性も指摘されています。

しかし空襲後に作成された作戦任務報告書（どこを攻撃し、どの程度の被害を与えたかを報告する報告書）には、南部工場（アメリカ軍からすると横河電機小金井工場）は上げられていません。本多地区の受けた空襲は、目標を狙った計画的な空襲とは別のものであり、なおかつ南部工場とは関係の無いものと考えてよさそうです。6月20日作成の別形態のリストにもこの工場が載せられており、どうやら工場が健在であるということは認識されていたようです。

そして空襲による被害を受けなかった南部工場は、そ

のまま終戦まで機能を全うしています。

### 戦後の工場

終戦後、日本に進駐してきたアメリカ軍は、工場や基地に残されていた武器類の廃棄を行わせ、軍需工場の民間転換（武器を作っていた工場を、民間で使う製品を作る工場へ変える）をすすめます。南部工場でも残されていた銃器類の廃棄が行われています。

昭和30年（1955）には、糸川英夫率いる東京大学生産技術研究所が、残されていた銃器の試射場を利用して、ペンシルロケットの水平試射実験を行い、成功させました。このように軍需工場時代の設備が意外な形で再活用されました。

### （参考資料）

- 攻撃目標リスト（Target in Tokyo area, Report No.1-a (4), USSBS Index Section7）の、原資料はアメリカ国立公文書館所蔵、国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能。横河電機小金井工場は246頁。
- 作戦任務報告書（No.183, Tokyo, 25 May 1945, Report No.2-b(40).USSBS Index; Section7）も同じく、原資料はアメリカ国立公文書館所蔵、国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能。
- 清水靖夫編『多摩地形図』之潮 2004

（中野 純）

Events

平成 27 年度の国分寺市文化財普及事業の予定は以下の表のとおりです。

月	日(曜日)	行 事	広報予定
4	12日(日)	万葉花まつり ふるさと文化財愛護ボランティアによる武蔵国分寺跡周辺ミニめぐり	4/1号市報
5			
6			
7	2日(木)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座(定員20名、全6回)受講申込受付開始	7/1号市報
	18日(土)	●夏季企画展「国分寺市の戦争記録」(8月30日まで)	7/1号市報
	30日(木)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座①[国分寺市の歴史と文化財1 旧石器・縄文時代]	
8	6日(木)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座②[国分寺市の歴史と文化財2 奈良・平安時代]	
	21日(金)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座③[国分寺市の歴史と文化財3 中世・近世の国分寺市]	
	30日(日)	●夏季企画展終了	
9	3日(木)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座④[ガイド実習]	
	10日(木)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑤[文化財普及の目的と方法]	
	17日(木)	○ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座⑥[ボランティア認定式]	
10	1日(水)	東京文化財ウィーク2015 企画事業(11月30日まで)	9/15号市報
	10日(土)	●市内文化財めぐり(定員30名、事前申込制)	9/15号市報
	14日(水)	武蔵国モニターツアー 武蔵国の歴史を訪ねる! 国府ものがたりコース(定員20名、事前申込制)	
	18日(日)	●おたかの道湧水園無料公開(おたかの道湧水園開園記念日)	10/1号市報
11	1日(日)	国分寺まつり 史跡ガイドボランティア 現地解説(僧寺金堂跡, 真姿の池, ほか) ●おたかの道湧水園無料公開	10/15号市報
	2日(月)	教育7DAYS(11月8日まで)	
	21日(土)	ぶんぶんウォーク(11月23日まで)	
12	13(日)	●市外文化財めぐり 埼玉県坂戸市・鳩山町をめぐる(定員40名、事前申込制)	11/1号市報
1	上旬	●冬季企画展 埼玉県坂戸市との連携ミニ展示 テーマ:東山道武蔵路(3月上旬まで)	12/15号市報
	下旬	●歴史講演会 テーマ:東山道武蔵路	12/1号市報
	下旬	●文化財防火デー 消防訓練(1月26日前後、国分寺消防署・国分寺市消防団・ふるさと文化財課その他)	1/15号市報
2	上旬	多摩郷土誌フェア	未定
3	上旬	●冬季企画展 終了	

※記号説明: ●→ふるさと文化財課主催・共催事業, ○→ふるさと文化財愛護ボランティア養成講座, 無印→ふるさと文化財課関連行事  
※内容、日程は変更することがあります。

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内



- 交通のご案内 ※駐車場はありません
- 【電車】○JR国分寺駅下車/徒歩約20分 ○JR西国分寺駅下車/徒歩約15分
  - 【バス】○国分寺市循環バス『ぶんバス』日吉町ルート「泉町一丁目」下車/徒歩約8分  
○国分寺駅南口より「京王バス」系統番号<寺83>・<寺85>乗車「泉町一丁目」下車/徒歩約8分

- 開館時間  
午前9時～午後5時(入館は午後4時45分まで)
  - 休館日  
毎週月曜日(祝日・振替休日の場合はその翌日)  
年末年始(12月29日から1月3日まで)  
※展示替えなどで臨時休館することがあります。
  - 入園料  
資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。(入園券は史跡の駅で販売)  
一般……………100円(年間パスポート1,000円)  
中学生以下……………無料
  - 【入園料の減免規則があります】
  - (1) 学校の教育活動で生徒(中学生を除く)、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕
  - (2) 身体障害者及びその介護者が入園するとき〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕
  - (3) その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前(5日前まで)に減免申請書の提出が必要です。〕
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

見る 学ぶ 訪ねる

武蔵国分寺跡  
資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

ホームページQRコード